

# 日本本土へ攻撃可能なミサイル部隊の整備動向



(写真：2024年10月、習近平のロケット軍視察)

2025. 2. 28

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

注：本書の無断転載、複写、複製を禁じます。  
衛星画像の使用については著作権の関係上、別途お問い合わせ下さい。

# 項 目

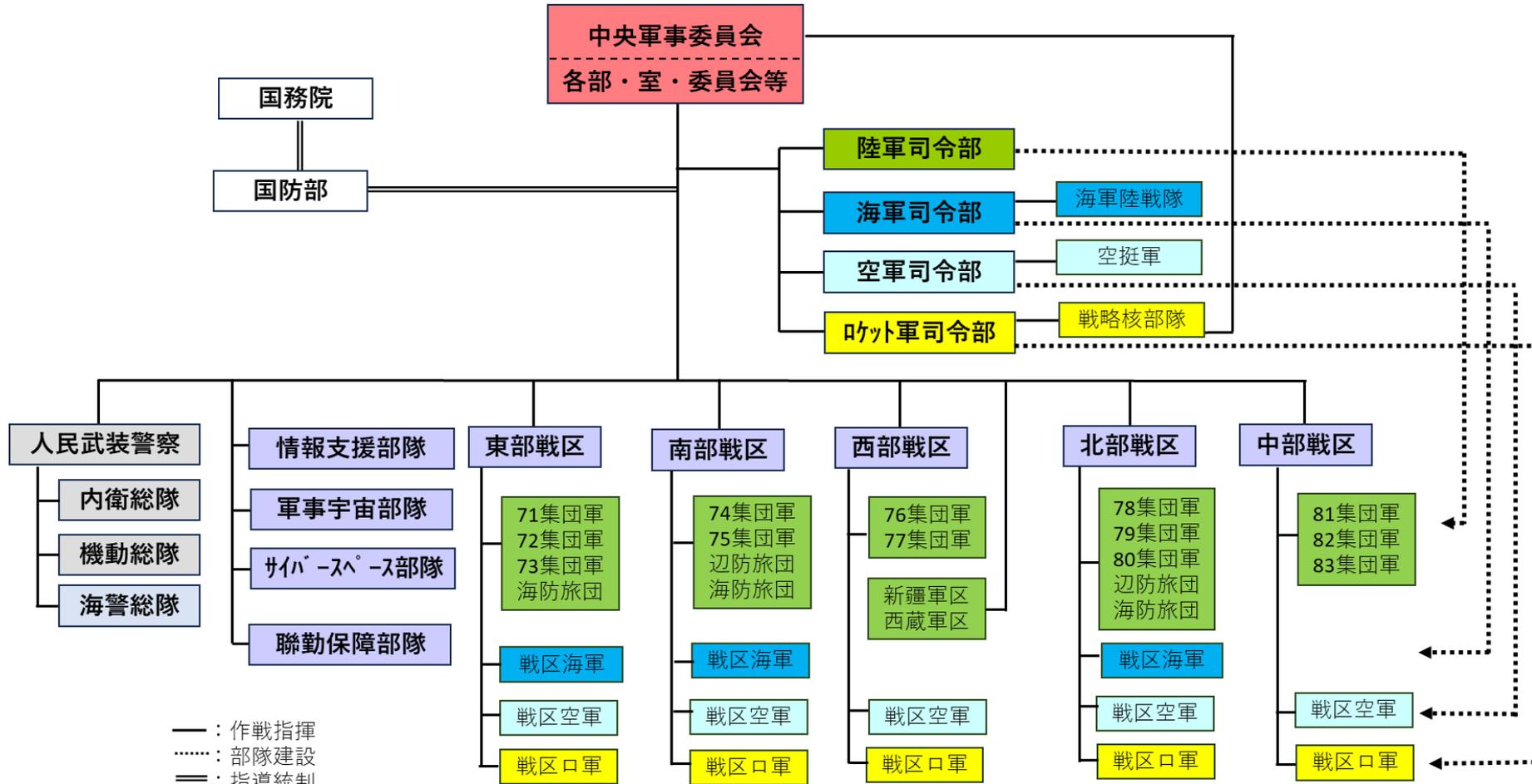
- 1 ロケット軍の概要
- 2 日本本土へ攻撃可能なミサイル部隊
  - HGV搭載ミサイル
  - 巡航ミサイル
  - 核ミサイル
- 3 まとめ

注：① 画像の判定はいずれも推定  
② ミサイルは駐屯地からは発射しないものの、射程は配備駐屯地から測定して図示

# ロケット軍の位置づけ

- 陸・海・空軍と並ぶ4コ軍種の1つ
- **核威嚇と核反撃能力・中長距離精密打撃能力・戦略的均衡維持能力により、全域への戦略的威嚇**

(2019年中国国防白書)



(組織図資料源：公開情報から筆者が作成)

# ロケット軍の編成

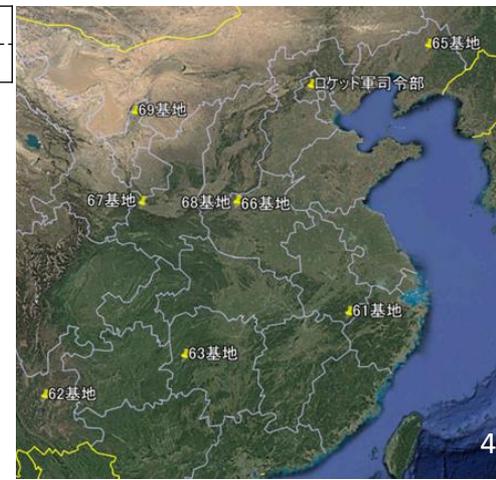
ロケット軍はミサイル基地を隷下に置き、核ミサイル部隊・通常ミサイル部隊・後方支援部隊等から編成

(2019年中国国防白書)



(資料源：公刊情報から筆者が作成)

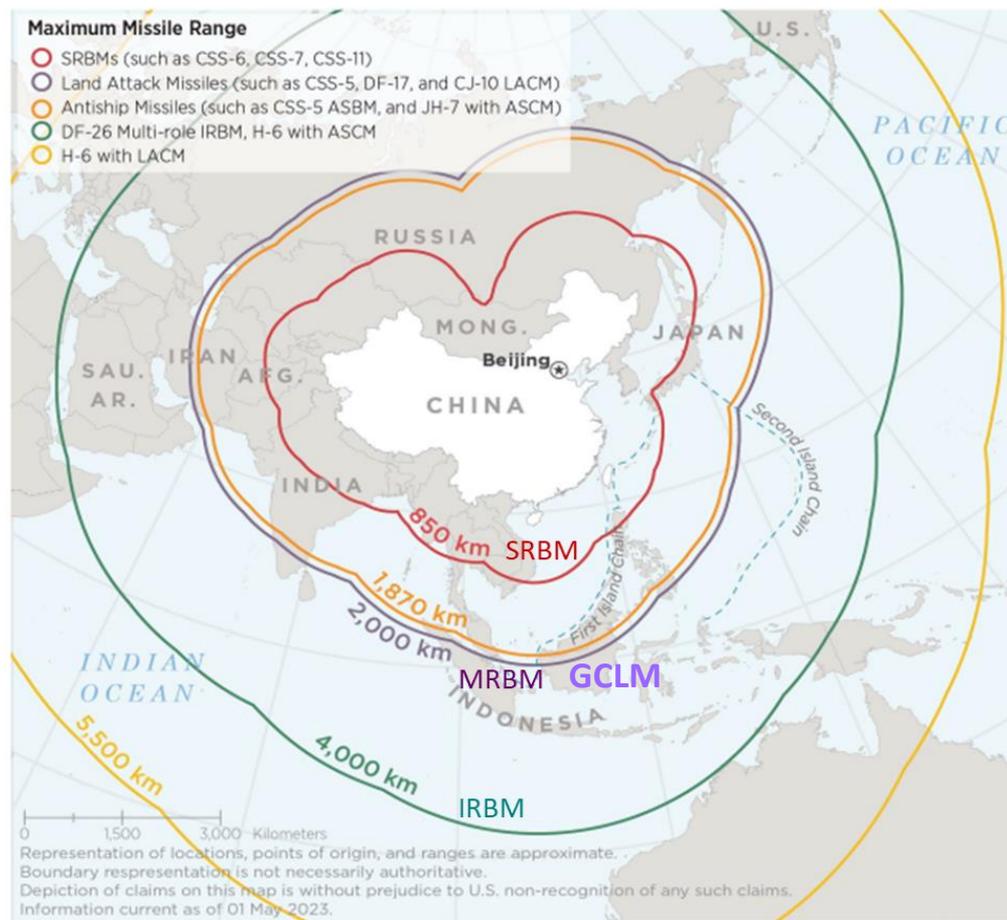
注：この他、各基地隷下に訓練連隊・通信連隊・作戦保障連隊・総合保障連隊・技術勤務旅団・装検連隊・無人機連隊・病院等が所属



# ロケット軍の保有ミサイル

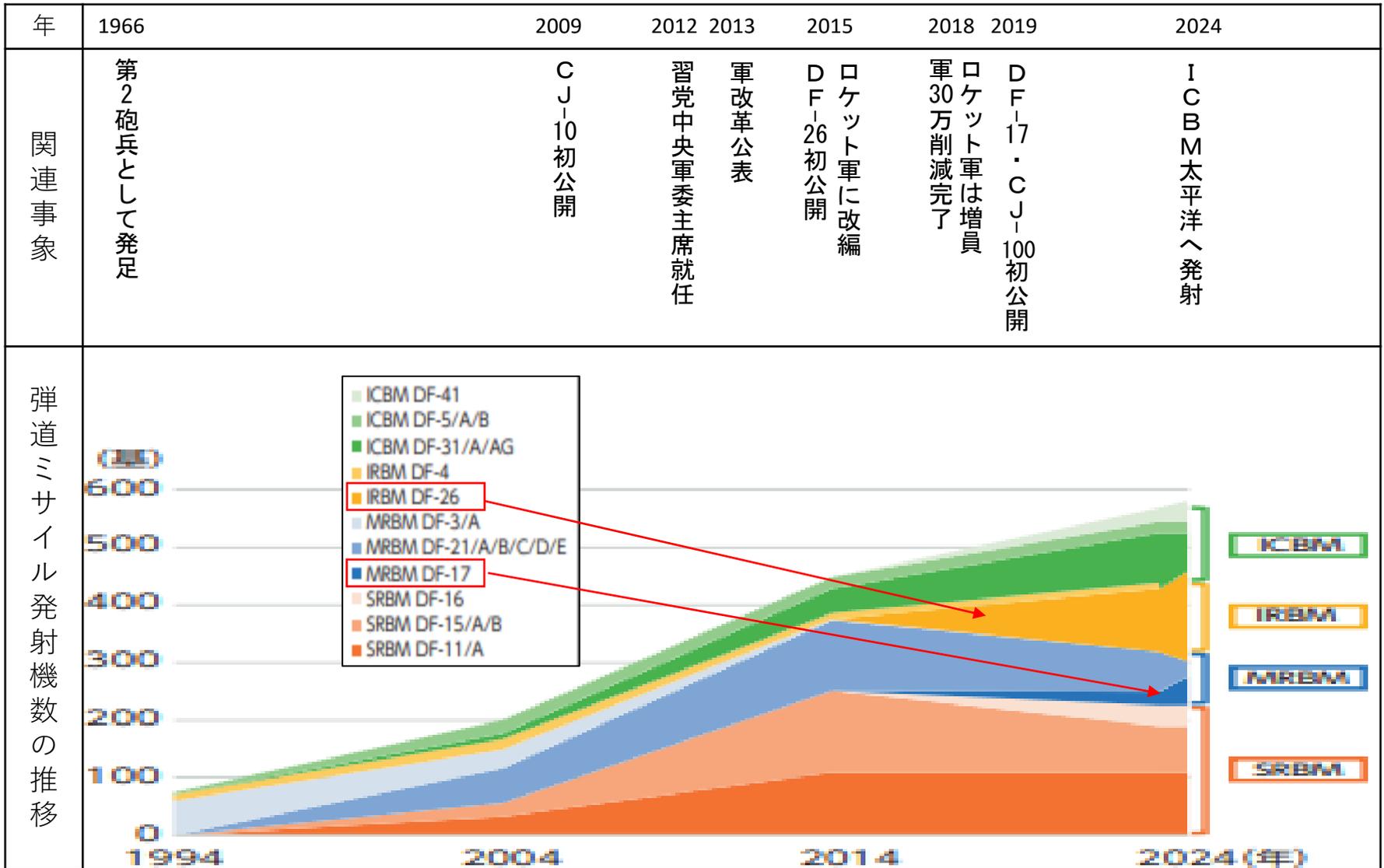
種別	弾種	発射機数
ICBM 大陸間弾道 ミサイル	DF-5A/B/C	18
	DF-31A/AG	86
	DF-41	44
IRBM 中距離弾道 ミサイル	DF-26(dual)	250
MRBM 準中距離弾道 ミサイル	DF-21A/E	24
	DF-17	48
	DF-21C/D	30
SRBM 短距離弾道 ミサイル	DF-11A	108
	DF-15B	81
	DF-16	36
GLCM 地上発射巡航 ミサイル	CJ-10/CJ-10A	72
	CJ-100	54
計		851

(資料源：MILITARY BALANCE 2025)



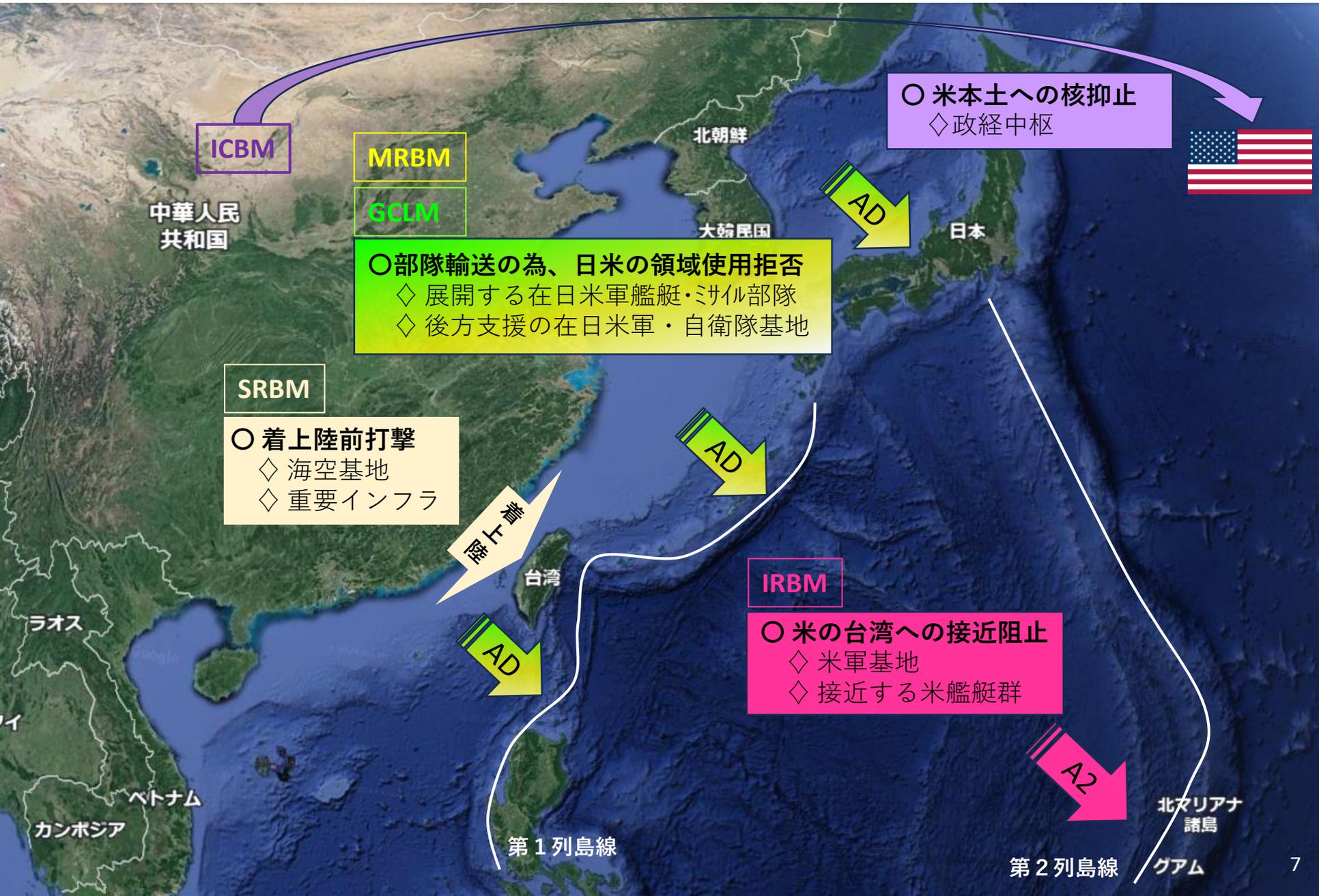
(出典：MILITARY-AND-SECURITY-DEVELOPMENTS-INVOLVING-THE-PEOPLES-REPUBLIC-OF-CHINA-2024)

# ロケット軍の変遷



(グラフ出典：R6防衛白書)

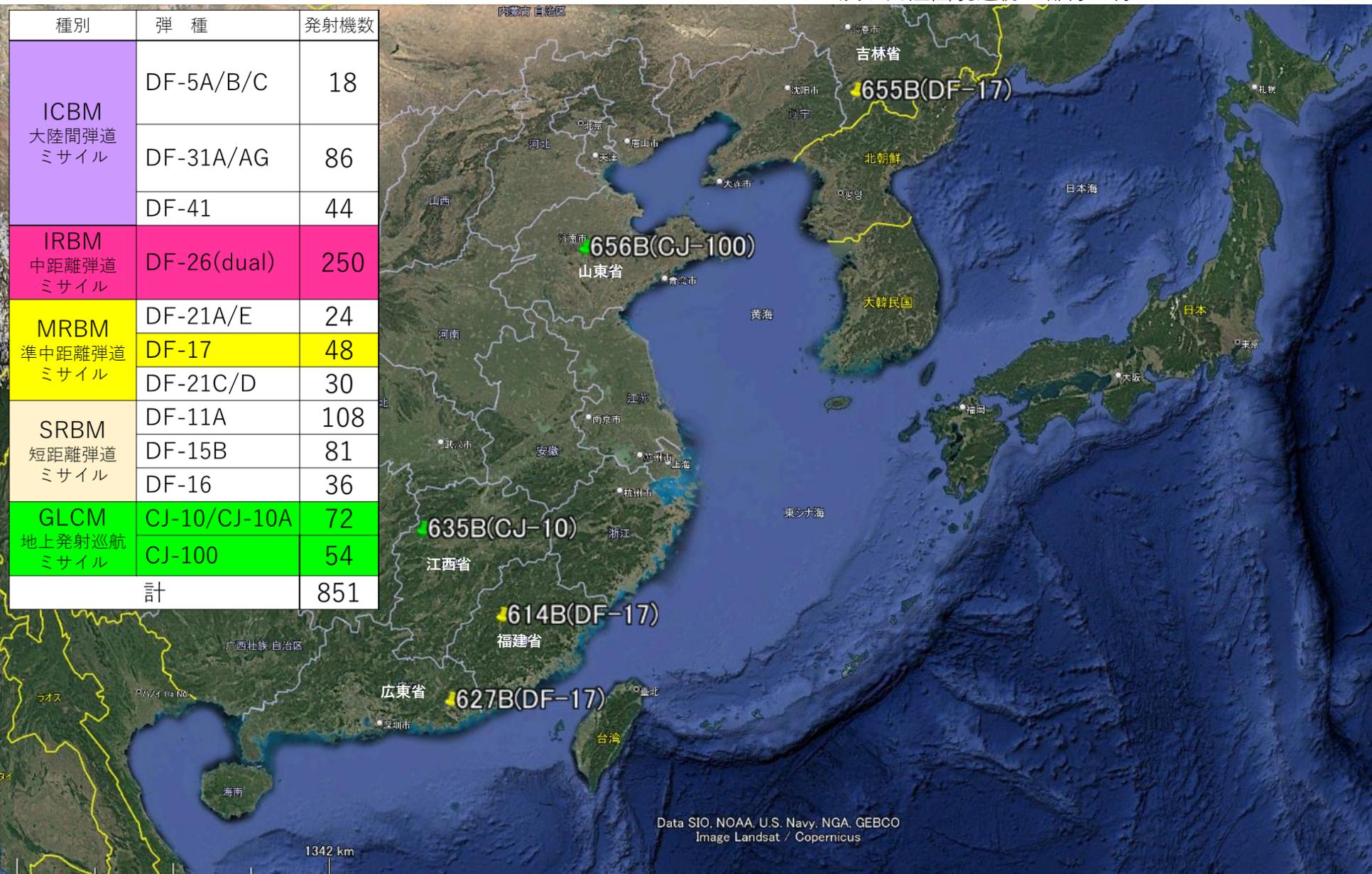
# ロケット軍の役割 (台湾侵攻時)



# 対日攻撃の可能性がある通常ミサイル部隊

注：射程内でも南シナ海等に指向が適した配置、対艦ミサイル及び内陸国境近傍の部隊は除く

種別	弾種	発射機数
ICBM 大陸間弾道 ミサイル	DF-5A/B/C	18
	DF-31A/AG	86
	DF-41	44
IRBM 中距離弾道 ミサイル	DF-26(dual)	250
MRBM 準中距離弾道 ミサイル	DF-21A/E	24
	DF-17	48
	DF-21C/D	30
SRBM 短距離弾道 ミサイル	DF-11A	108
	DF-15B	81
	DF-16	36
GLCM 地上発射巡航 ミサイル	CJ-10/CJ-10A	72
	CJ-100	54
計		851



Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO  
Image Landsat / Copernicus

# DF-17 (MRBM) : 特徴

- ◇ HGV (極超音速滑空兵器) 搭載
- ◇ 大気圏内を極超音速で滑空飛翔、軌道予測が困難で、探知が遅れ弾道ミサイルより迎撃困難

⇒ 日本のBMD突破する能力獲得

HGVの軌道イメージ (資料源: R5防衛白書) (イメージ)



Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO  
Image Landsat / Copernicus

各駐屯地から射程2000km

# DF-17：第655旅団（吉林省）全景

2023年9月



2020年10月



工事開始時の新駐屯地区

Google Earth Pro 2020.10.20

生活隊舎地区

車庫・倉庫地区

事務棟

↑高層整備棟  
ミシシを起立させて整備等するための施設

.....：駐屯地境界

300m

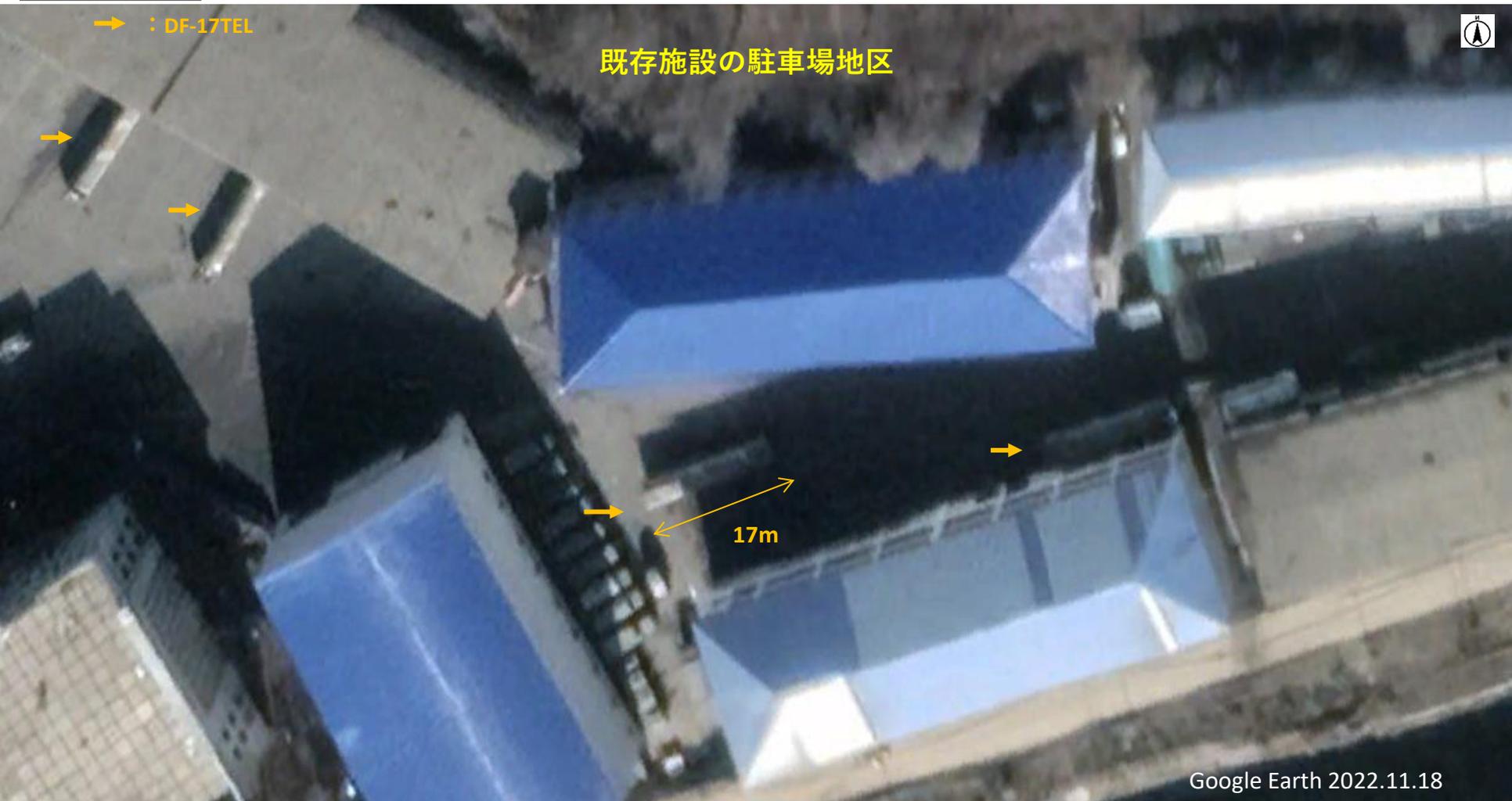
- ◇ 以前は他旅団の司令部地区
- ◇ 2020年10月以降、新駐屯地区造設

# DF-17：第655旅団（吉林省）駐車場地区

2022年11月

→ : DF-17TEL

既存施設の駐車場地区



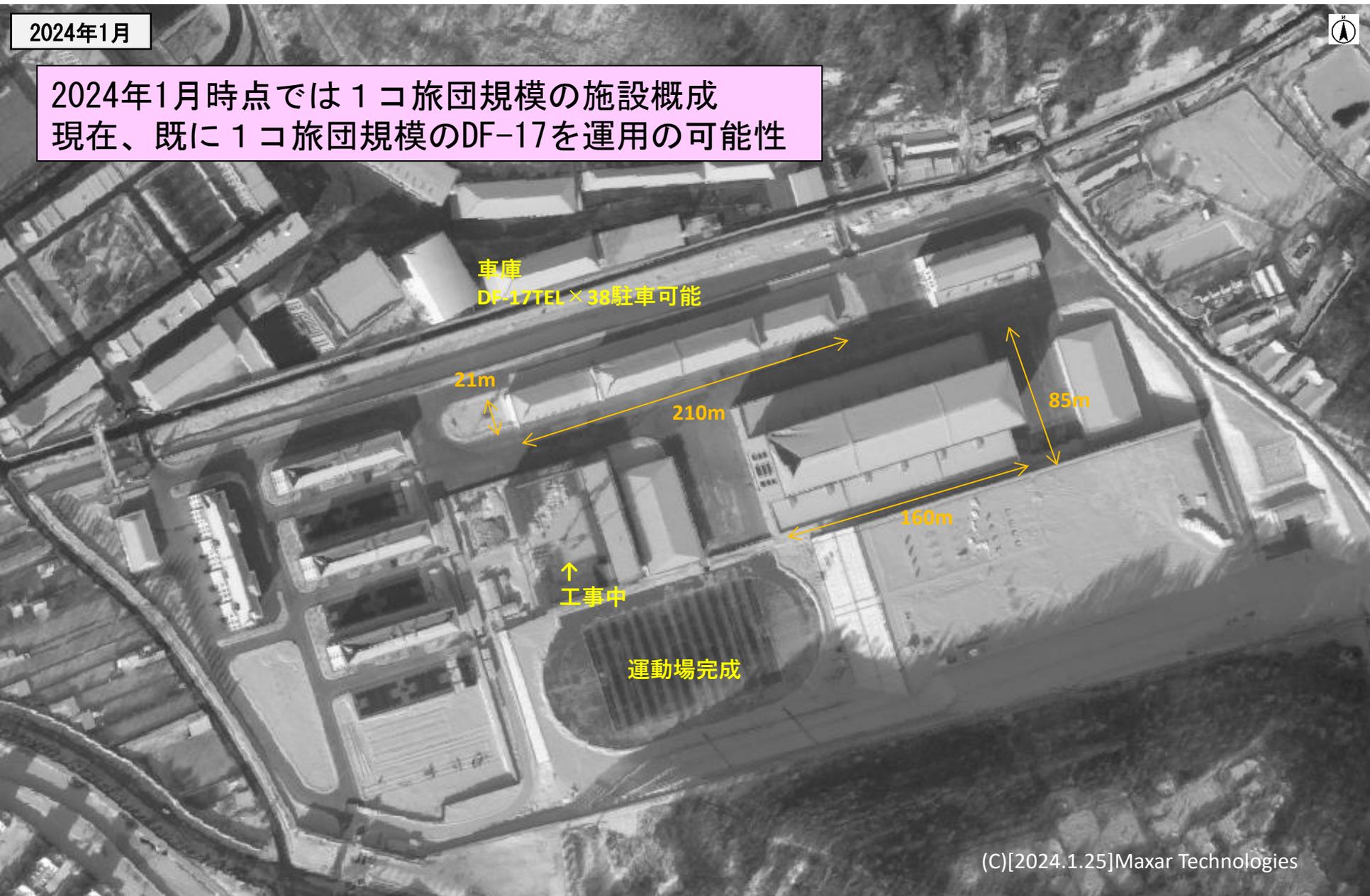
Google Earth 2022.11.18

工事開始の2020年までにはDF-17を一部配備し、既存の車庫等を利用していただけの可能性

# DF-17：第655旅団（吉林省）拡張部分

2024年1月

2024年1月時点では1コ旅団規模の施設概成  
現在、既に1コ旅団規模のDF-17を運用の可能性



(C)[2024.1.25]Maxar Technologies

# DF-17：第614旅団（福建省）全景

以前はDF-11配備旅団

DF-17TEL（輸送起立発射機）

17m

Google Earth Pro 2022.3.2

2022年3月

DF-17車庫地区（80基分）  
（2015～2022工事）

145×28m

↑高層整備棟

.....：駐屯地境界

Google Earth Pro 2022.3.2

400m

2019年11月

工事前

偽装網下の車両/資材  
（19×19m、23×29m）

Google Earth Pro 2019.11.23

2019年までにDF-17に  
一部換装、事後車庫の  
建設を実施の可能性

# DF-17：第614旅団（福建省）駐屯地内整備部分

2022年3月



2024年1月



【参考】吉蘭泰訓練場で訓練中のミサイル部隊



- 2022年にDF-17×1コ旅団規模の施設が完成していることから、それまでにDF-17の換装完了の可能性
- 2024年には駐屯地内で常に訓練できるように環境を整備



2011年頃から不明部隊が  
使用



2018年以降、施設整備が開始、DF-17が一部配備された可能性



.....：駐屯地境界

# DF-17：第627旅団（広東省）拡張部分

2018年3月

操縦訓練場

125m

Google Earth Pro 2018.3.18



2023年11月

訓練場

訓練用パッド

高層整備場

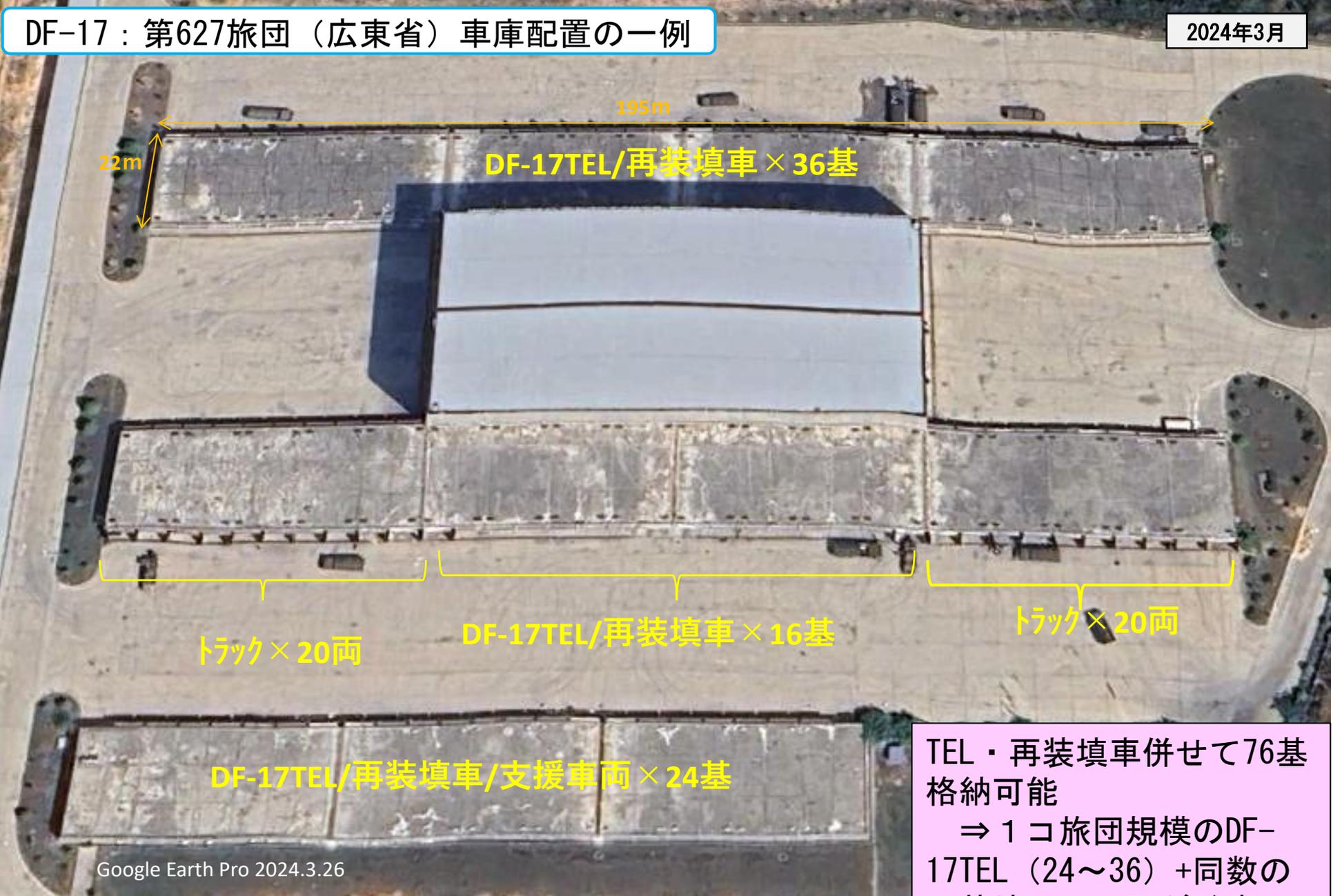
車庫

125m

(C)[2023.11.4]Maxar Technologies



2023年までには1個旅団規模のDF-17が配備の可能性



Google Earth Pro 2024.3.26

TEL・再装填車併せて76基  
格納可能  
⇒ 1コ旅団規模のDF-  
17TEL (24~36) +同数の  
再装填=48~72が駐車

## CJ-10、CJ-100 (GCLM) : 特徴

- ◇ 長距離を自律飛行し目標をピンポイント攻撃
- ◇ 一般に弾道ミサイルより命中精度が高く、低高度飛行で探知困難な反面、低速度で迎撃されやすい
- ◇ 但し、CJ-100は最高速度マッハ4でBMD突破能力・命中精度が向上

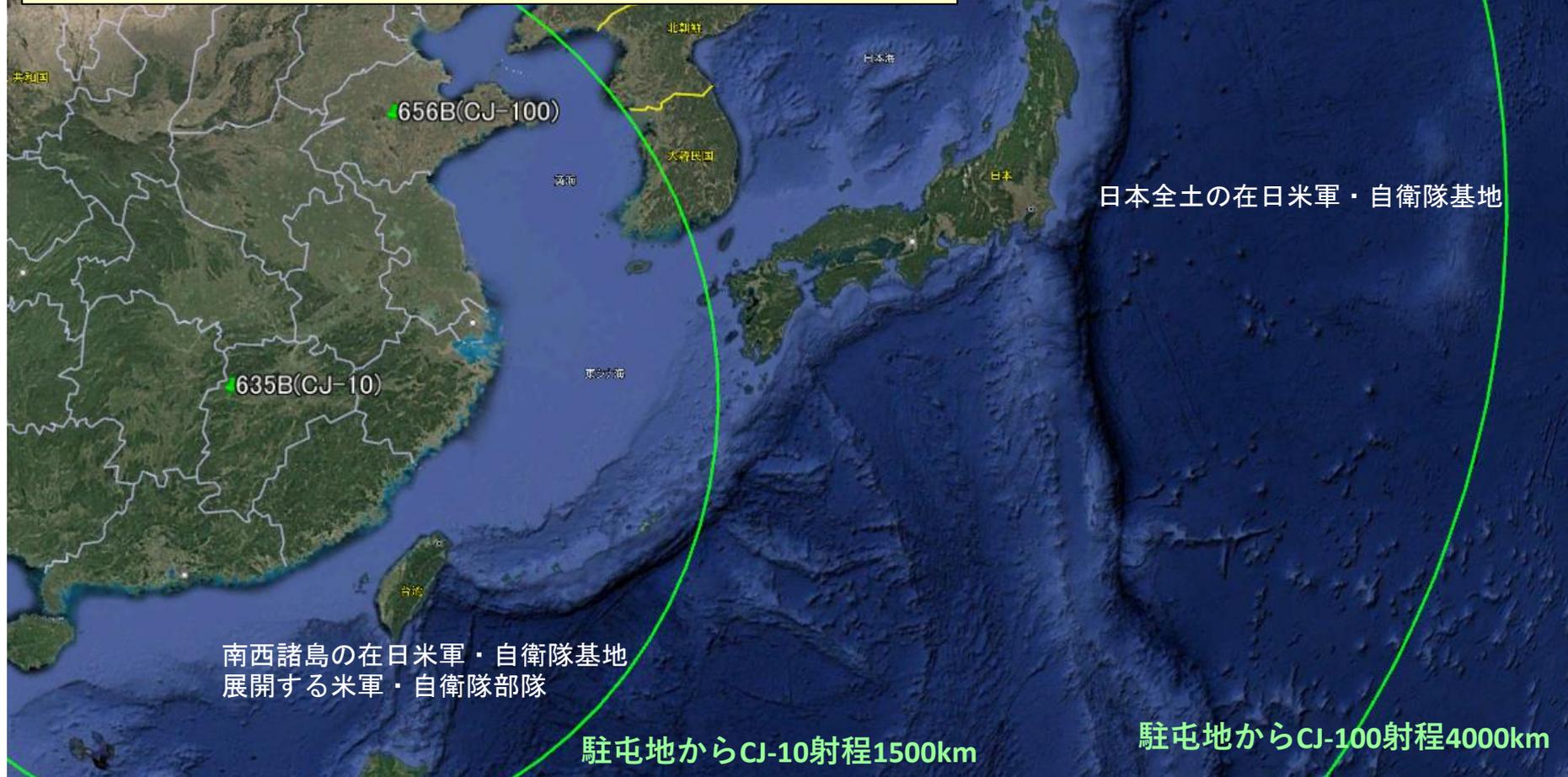
⇒日本への精密打撃能力強化

## 2024年珠海エアショーでのCJ-100の説明

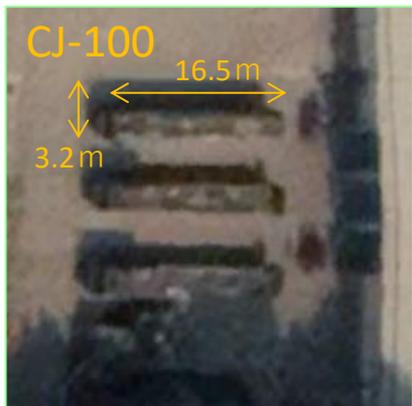
长剑-100导弹(也叫东风-100)是新一代陆基超音速巡航导弹,射程3000-4000km,速度高达4马赫,其突防能力强、命中精度高、反应速度快,是火箭军精打要害、克敌制胜的“杀手锏”装备。



长剑-100巡航导弹



# CJ-100 : 第656旅団 (山東省) 全景



2022年10月

2024年5月



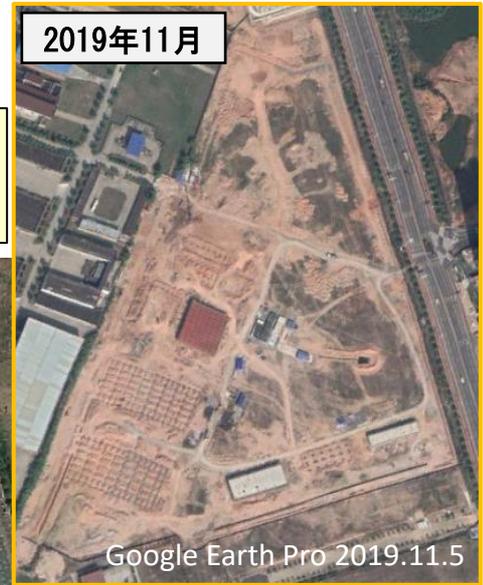
- 駐屯地内で部隊活動が活発化した2019年頃までにCJ-100配備
- 旧タイプ 既存施設の倍面積増築⇒新タイプ 施設の増築や新型ミサイル配備準備の可能性

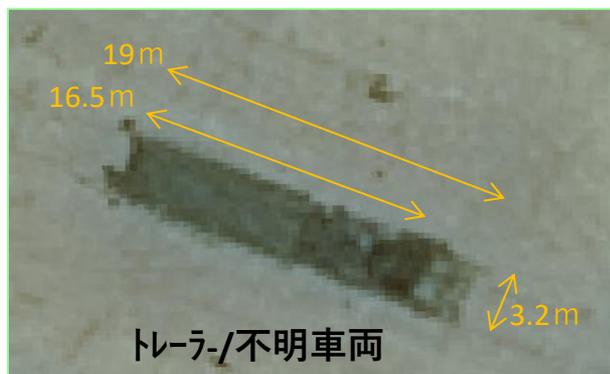
# CJ-10 : 第635旅団 (江西省) 全景

2019年11月

- 2009年までに、CJ-10旅団として運用
- 2019年までに拡張工事開始、24年3月には工事完了

2024年3月





- CJ-10又はCJ-100TEL/ミサイル再装填車×96 (1コ旅団規模) 駐車可能な車庫等増築、高層整備棟付近には車両走行痕も確認されることから既に運用されている可能性
- 既存の施設も運用中であり、**更に1コ旅団規模の施設を増築**していることから、2024年時点では**新型ミサイルが配備**されている可能性も否定できず

対日攻撃の可能性がある核ミサイル部隊  
DF-21A（遅くとも2023年以前）：第611旅団（安徽省）

DF-21A / 射程約2000km



(資料源：MIISM)

DF-21A/E発射基数	40→24	Military balance2023→2024・2025
DF-21A/E核弾頭数	24→0	SIPRI2023→2024年版

安徽省

611B(DF-21A)

611B駐屯地から  
2000km

中国沿岸から  
2000km

日本に対する核威嚇任務を有していたDF-21Aは退役した可能性

## 第611旅団への新型ミサイル配備

習近平中央軍事委主席の視察 (CCTV報道20241019)

2024年10月17日、習中央軍事委主席はロケット軍某旅団を視察

- 某旅団は安徽省に所在する戦略弾道ミサイル部隊
- 創立50年以上であり、新装備に更新

旧装備 (DF-21A) の模型を展示

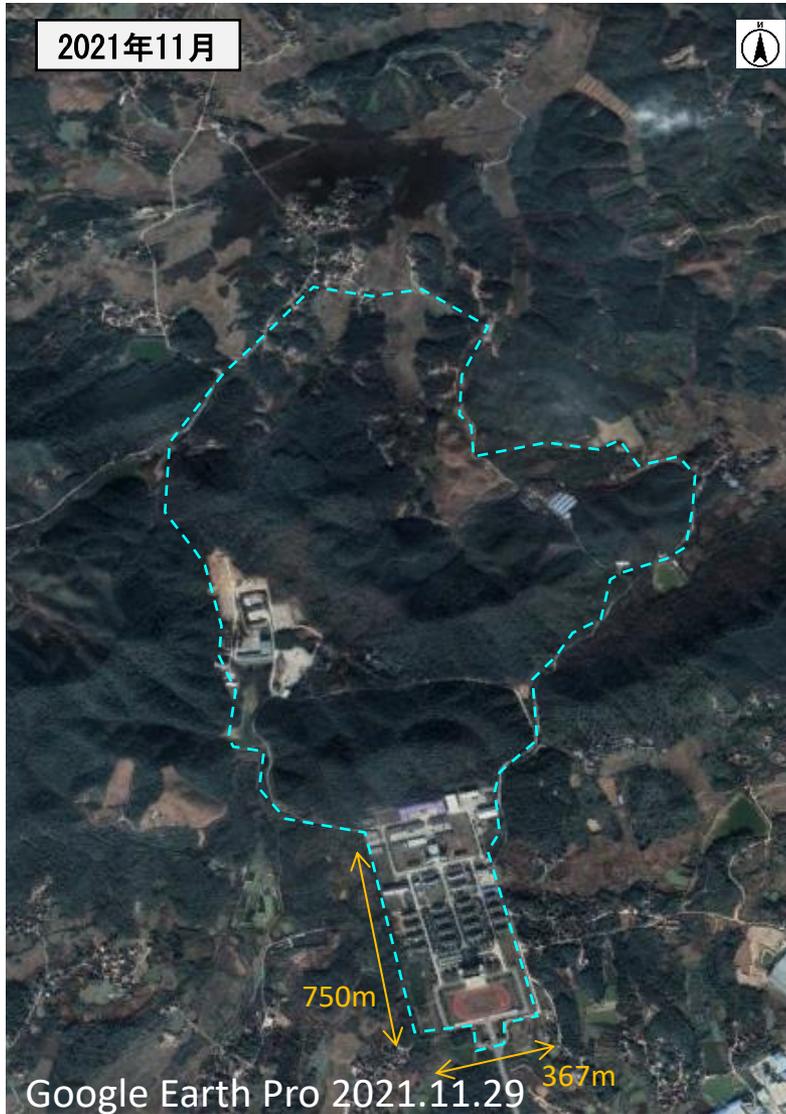


駐車場に整列し視察を受けるDF-26



画面内でDF-26TELを25基確認

- 視察は第611旅団、DF-21Aから射程が倍のDF-26へ更新
- DF-26は核・通常対地・対艦弾頭装着可能。同部隊は核MRBM運用していた部隊であり、核ミサイル1種類又は核・通常対地ミサイル2種類を運用している可能性
- DF-26は Guam まで到達することから第611旅団が対日任務を継続しているか不明



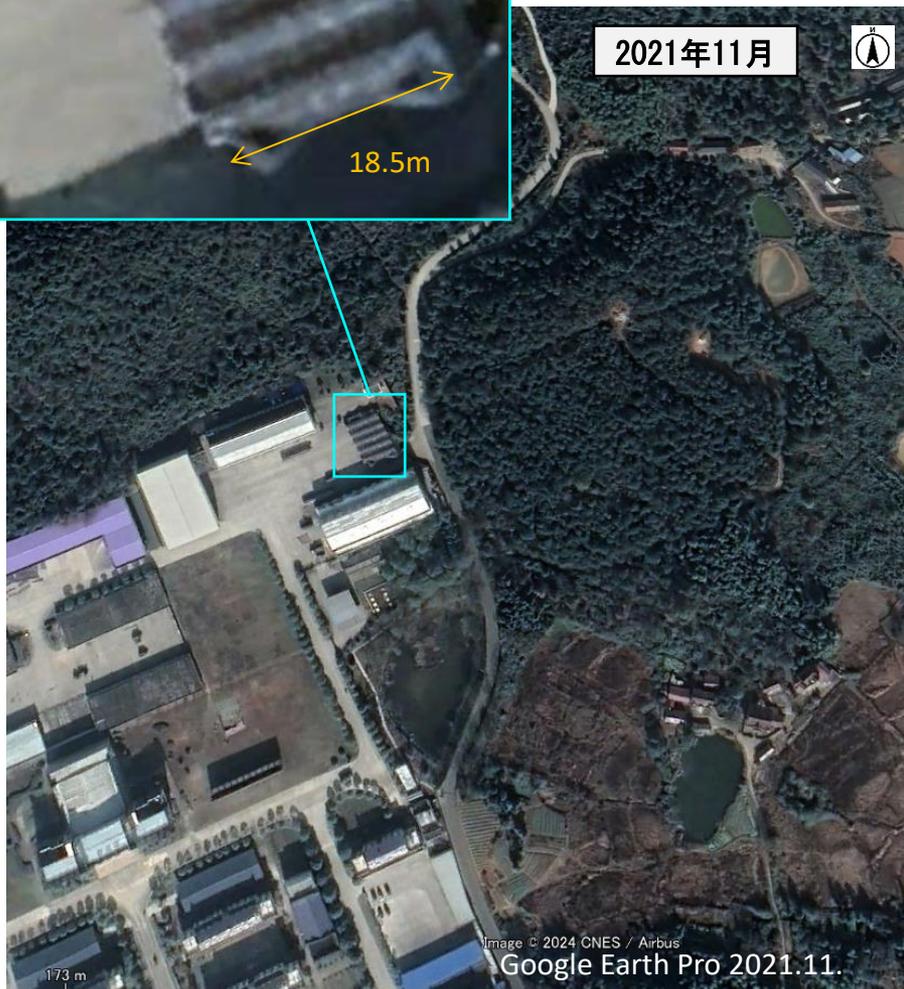
2024年までに1コ旅団規模の施設の増築開始

# DF-26 : 第611旅団 (安徽省) 拡張地区

偽装網下のDF-26TEL × 5



2021年11月



- ◇ 2021年までにはDF-26一部配備
- ◇ 既存の駐車場隣に車庫増築
- ◇ DF-26TEL × 48駐車可能な規模

2024年5月



## DF-26：第611旅団（安徽省）拡張地区

- DF-26の為の施設を増築中
- 道路網が複雑に山中に伸び、施設も点在していることから、**装備保管施設**や**訓練施設**の可能性もあり



↑  
広範囲に渡り  
施設増築中

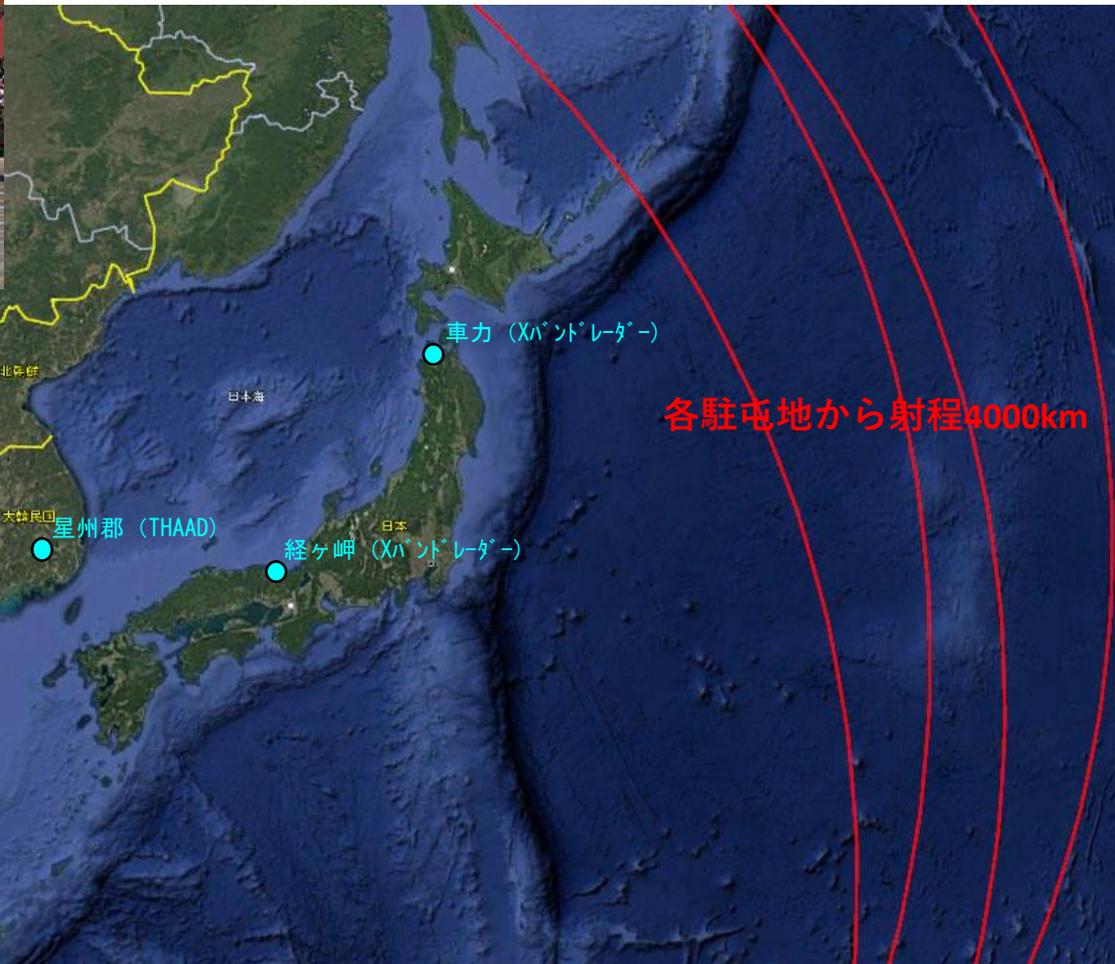
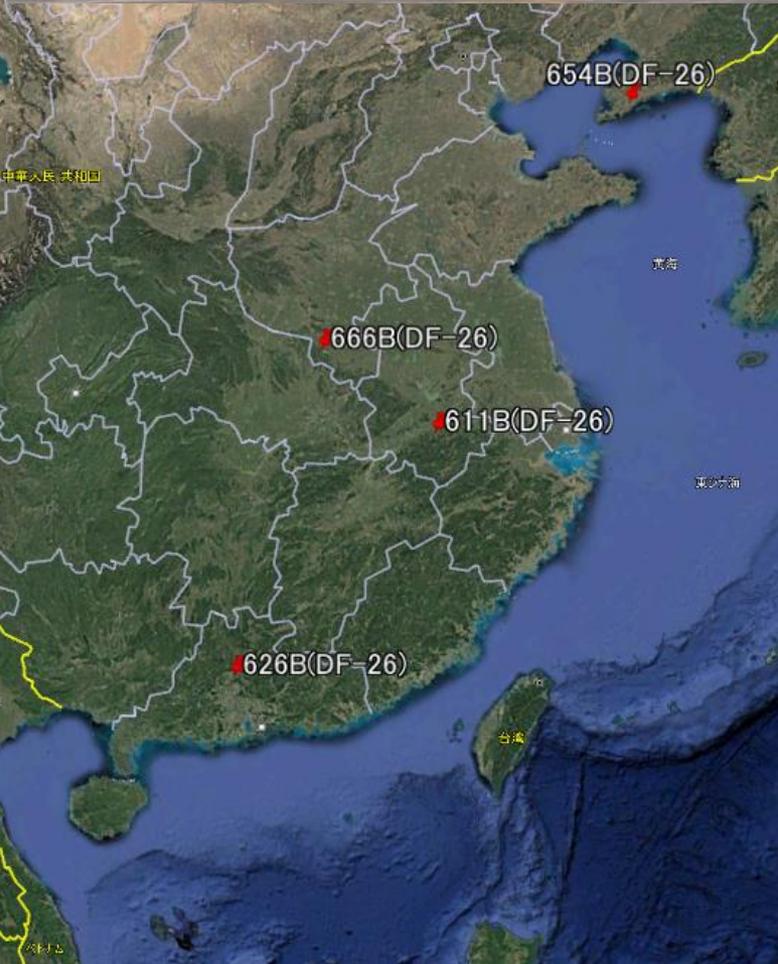
↓  
接続道路新設

→  
既存施設

500m

# 対日攻撃の可能性のある核ミサイル旅団

注：射程内でも南シナ海等に指向が適した配置、対艦ミサイル及び内陸国境近傍の部隊は除く



- どの部隊が対日orグアム、核or対地or対艦の判定が複雑・困難化
- 在日本・韓国の米軍レーダー回避も企図
- 対日指向核任務が複数のDF-26部隊に移行したとすれば、日本への威嚇力が大幅に増強

# 日本本土攻撃可能ミサイル部隊の整備状況

注：年は画像・映像のみの確認年数

**極超音速滑空弾道ミサイル（日本全土）**  
～2020 配備開始  
2024 1コB規模

**超音速巡航ミサイル（日本全土）**  
～2019 配備開始  
2022 1コB規模  
2024 新型ミサイル配備準備の可能性

**巡航ミサイル（南西諸島）**  
～2009 配備  
2024 新型ミサイル配備の可能性

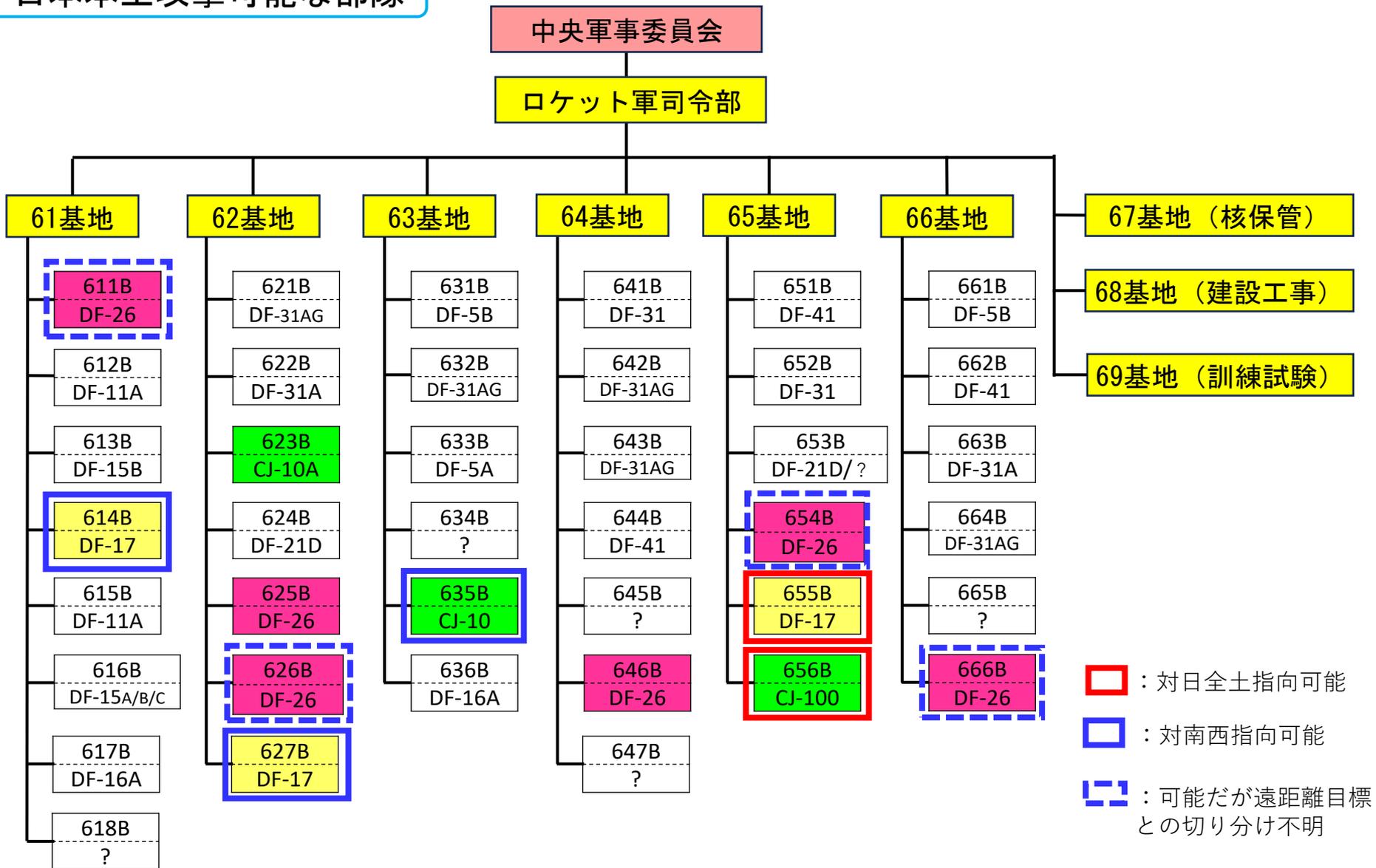
**極超音速滑空弾道ミサイル（一部南西諸島）**  
～2018 配備開始  
2024 1コB規模

**核・対地中距離弾道ミサイル**  
～2021 対日核部隊  
改編開始  
2024 1コB規模

**極超音速滑空弾道ミサイル（南西諸島）**  
～2019 換装開始  
2022 1コB規模



# 日本本土攻撃可能な部隊



## 対日攻撃可能な部隊の評価

### ○ ミサイルの質

2018～19年以降、極超音速滑空準中距離弾道ミサイル（DF-17）、超音速巡航ミサイル（CJ-100）の配備により日本の**BMD突破能力を新たに獲得**

### ○ ミサイルの量

DF-17、CJ-100旅団は配備開始以降関連施設を増築し、配備ミサイルを**増加**  
**2024年には各部隊とも旅団規模のミサイルを運用している可能性**

- ◇ 日本全土可能旅団：DF-17×1、CJ-100×1、DF-26×4（日本主対称は1の可能性）
- ◇ 南西諸島可能旅団：DF-17×2、CJ-10×1

### ○ 対日攻撃部隊の判定

全てが対日任務のみを有するわけではなく、配備ミサイル不明な旅団も存在  
更に弾頭の種別判定困難なDF-26も増加していることから、**どの部隊が日本に対してミサイルを発射するのかの判定が複雑・困難化**

### ⇒ 日本の対応

- ◇ **BMD突破を企図**するミサイルの質・量の増強への対処
- ◇ 広く継続的に動向を監視し、統合演習での活動状況等から**対日脅威を判定**